



平成29年度
全国社会福祉大会長表彰
社会福祉法人 三陸福祉会
山田 林 理事長

1999年に施設長（理事）に就任以来、地域の少子高齢化等による在宅介護ニーズの増大に応える。2011年の東日本大震災津波で施設は全壊し壊滅状態となり、2012年に理事に再任。施設、法人の再建に取り組み、2014年に施設移転再開等、法人・地域介護サービスの向上に努める。

地域密着型サービスなど制度上、新しい事業を実施し、認知症高齢者への対応など、地域住民が安心してサービスを受けられるよう運営を行っている。

岩手県高齢者福祉協議会沿岸ブロック（福祉協議会）会長、岩手県高齢者福祉協議会会长及び副会長を務め、要職を歴任。団体発展に貢献した。県社協評議員、岩手県社会福祉協議会社会福祉法人経営者協議会幹事を務め、岩手県内の福祉推進に尽力、貢献している。

三陸には、さんりくの園があるから安心といわれる 「地域密着サービス」の充実を目指して

社会福祉法人三陸福祉人福祉事業団体として設立されました。

会は旧三陸町初の介護老人福祉施設で、平成4年に旧三陸町が主体となって法人を設立し、平成5年度に特別養護老人ホームさんりくの園、さんりくの園デイサービスセンター等を開所しました。以降、訪問介護、居宅介護支援、認知症対応型共同生活介護などを順次実施してきました。開設当初は公設民営の施設で、県からの補助金を除く全額を旧三陸町が負担していました。

開設から25年。当初から「地域とあなたと共に」をスローガンに、介護のベストパートナーとして、地域の皆さんと一緒に明るく笑顔があふれる楽園づくりを目指してきました。それだけに地域の皆様方

東日本大震災津波後、同月に大船渡市社協YSセンターに仮事務所を設置し、訪問事業を再開しました。同じく8月に越喜来地区で休業中の旅館でデイサービス事業を再開しました。

これまでのご支援に感謝するとともに、この教訓や介護事業を開してきたことによる知識と経験の蓄積、ネットワークを大切に活かしながら、地域の方々から「三陸地域には、さんりくの園があるから安心」といわれるよう、懇切丁寧・誠心誠意の姿勢で「地域

平成29年度全国社会福祉大会長表彰受賞の喜びを お聞かせください

と共に受賞を喜びたいと存じます。

の皆様との信頼関係の構築」に努めて参りたいと思っています。

います。行政・地域・住民と一緒に地域福祉向上のために努力して参ります。

これからのお題などをお聞かせください

私たち法人は利用者皆様の満足度の向上のための行動と仕組みを構築し、「利用者皆様の安心とそ

のんらしさ」が継続できるよう、寄り添い、やわらかいケアをしていきます。

東日本大震災津波により全施設が全壊し、再開されるまで大変ご苦労をなさいましたが

地域の方々の多大なご協力をはじめ、国内外から多くのご支援をいただきました。津波の心配のない高台に全事業を新築移転することができ、平成26年から順次全サービスを復旧することができます。

これまでの課題などをお聞かせください

私たち法人は利用者皆様の満足度の向上のための行動と仕組みを構築し、「利用者皆様の安心とそ

のんらしさ」が継続できるよう、寄り添い、やわらかいケアをしていきます。

岩手県社会福祉大会開催



第70回岩手県社会福祉大会（主催・岩手県社会福祉協議会、岩手県共同募金会）が11月1日に岩手県民会館で開催され、社会福祉関係者等、約1,200人が参加しました。

式典では、物故社会福祉事業関係者追悼の黙祷が捧げられた後、永年の功績を称え、里親2組、個人347人、26団体が表彰されました。記念講演では「助け合いの社会」と題し、作家・大学教授高橋源一郎氏の講演が行われました。東日本大震災から7年目を迎えた中で、「豊かな福祉社会の実現」のため、大会宣言を行いました。

大会宣言
一、被災者や、制度の狭間で困窮する人々が抱える様々な生活課題の解決に向

け、公的福祉サービ

スの利用援助などに加えて、住民の主体性に基づいた活動や、福祉に関わる事業者の連携協働の下に、世代や分野を超えてつながる新たな支援策を積極的に展開すること

一、福祉教育の推進やボランティア活動の振興などを通じて、住民相互の助け合いの機運を醸成し、災害にも備えた安全安心なコミュニケーションを促進すること

一、福祉・介護人材の養成・確保を進めるとともに、福祉サービスの質の向上を図ること

一、福祉分野のみならず、医療・保健・教育・労働など、多種多様な分野の組織、機関等とネットワークを強化し、より効果的な活動の展開に努める

こと

一、社会福祉法人における組織統治の強化と、地域における公益的事業の推進に取り組むこと